

政治・経済

【解答】

I

解答 1	解答 2	解答 3	解答 4
c	b	e	e

II

解答 5	解答 6	解答 7	解答 8
a	d	b	f

III

解答 A	解答 B	解答 C
国会議員	10	衆議院
解答 D	解答 E	解答 F
吉田茂	特例国債	財政法
解答 G	解答 H	
(第一次) 石油危機	インフレーション	

IV

第二次世界大戦以前の日本では小作農の比率が高く、農業経営をしない地主の寄生地主制が行われていたが、二度にわたって行われた農地改革により地主の土地が小作人へ格安で売却され自作農が大幅に増加した。その結果、農民の生活向上により国内市場は拡大し高度経済成長の一因ともなった。ただし、彼ら新しい自作農の経営規模は零細であり実験的農法を導入する余裕もなく、生産性の発展にはつながらなかった。

【学習アドバイス】

本学の入試は、例年選択科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となるので、各科目にかけるバランスにもよるが、平均的には50分程度が解答時間となる。本年度の政治・経済の問題構成は、全体で大問4題のうち、大問Ⅰと大問Ⅱが記号選択式問題（各4問ずつ）、大問Ⅲが語句記述式の空欄補充問題（8問）、大問Ⅳが200字程度の説明論述式問題（1問）となっている。説明論述式問題は、昨年度と同様に経済分野から出題されているが、その他の問題は政治・経済両分野の幅広いテーマから出題されている。なお、昨年度の問題と比較すると、本年度の問題は、①大問の数が1題増えて4題となった（小問の数は変わらず）、②正誤判定問題が出題された、③統計資料を用いた問題が出題された、④説明論述式問題で使用する語句が指定された、という変化が見られたが、全体としては基本事項を問う問題で構成されており、教科書レベルの知識を問う標準的な出題である。以下、大問ごとに内容を概観しつつ、今後の学習上必要な点をアドバイスしていきたい。

大問Ⅰは、市場メカニズムの長所と短所についての文章を題材とする記号選択式問題である。小問の内容は、企業や家計についての正誤判定問題（1問）、社会保障制度の歴史についての空欄補充問題（2問）、地方財政についての資料読み取り問題（1問）である。

大問Ⅱは、冷戦終結後の国際社会の動向についての文章を題材とする記号選択式問題である。小問の内容は、国際機関についての正誤判定問題（1問）、国際金融についての正誤判定問題（1問）、エネルギー問題についての資料読み取り問題（1問）、新型コロナウイルス感染症についての語句選択問題（1問）となっている。

大問Ⅲの語句記述式の空欄補充問題は、政治分野・経済分野についての問題文が1つずつ用意されており、各問題文にそれぞれ4つの空欄がある。問題文の内容は（1）が政治分野（国会と内閣の関係）、（2）が経済分野（国債の発行）となっている。

大問Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとも基本的な知識を問う問題であるので、取りこぼすことなく、全問完答を目指してもらいたい。そのためには、まず、教科書を繰り返し熟読し、基本的な知識の習得に努めることが必要である。その際、意味の分からない用語が出てきた場合には、用語集で必ず意味を確認するようにしてほしい。なお、本年度の問題では統計資料を用いた問題が出題されており、過去の問題でも具体的な数値を問う問題が出題されたことがあるので、最新版の資料集を手元に置いておくとよいだろう。知識のインプットが済んだら、問題集を活用して、アウトプットを行ってもらいたい。具体的には、通学時などの細切れの時間に一問一答形式の問題集で知識の確認をしつつ、私立大学の問題を収録した問題集を1～2冊仕上げれば十分である。

大問Ⅳは入試頻出テーマの1つである農地改革の意義と結果について200字程度で説明する問題である。一般に、論述式の問題は、苦手とする受験生が多く、点差が開きがちである。本学の問題においても、大問Ⅳを攻略できるかどうかの鍵を握っていると言える。本学の論述式問題は、教科書の掲載頻度が高い重要事項を説明するタイプと、時事的な話題について論じるタイプの2つに大別することができる。前者については、知識のインプットを終えた後に、『政治・経済 計算&論述特訓問題集』（河合出版）などを使用して、過去に出題された様々な論述問題にチャレンジしてもらいたい。後者については、日頃の学習の中で、新聞等で頻繁に取り上げられている問題や、資料集の巻頭特集や事例研究で扱われているテーマについて、現状や問題の背景、対策などを200字程度でまとめておくとよい。その上で、できれば学校や塾・予備校の先生に添削をしてもらい、記述内容に過不足がないかどうか、チェックしてもらおうとよいだろう。

なお、政治・経済という科目は時事的な話題に最も敏感な科目であり、本年度の問題でも大問Ⅱで新型コロナウイルス感染症についての問題が出題されているので、日頃から新聞に目を通す習慣をつけておくとよいだろう。また、説明論述式問題対策としては、時事的な話題の解説と関連用語を見開き2ページでまとめている『朝日キーワード』（朝日新聞出版）の併用を薦める。

最後に、本学の問題は難問・奇問の類は全くないので、地道に勉強を続けていけば必ず高得点をあげることが可能である。最後まであきらめずに勉強を続け、合格を勝ち取ってもらいたい。